千葉県八千代市

平沢遺跡　c地点・f地点

－乳児院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和４年度

社会福祉法人　鳳雄会
八千代市教育委員会

凡　　例

1．本書は，八千代市教育委員会が令和３年度民間開発等埋蔵文化財発掘調査事業として実施した発掘調査の報告書である。報告書作成作業は令和４年度事業として行った。

2．本書に収録した発掘調査は，乳児院建設に伴うもので，事業者である社会福祉法人鳳雄会の委託を受けて実施した。

3．遺跡名は，平沢遺跡，所在地は千葉県八千代市上高野152-8，153-1である。

4．調査及び整理は，以下のとおり実施した。

確認調査

c　地 点　期間　平成23年７月６日～平成23年７月20日　面積200㎡/2,000.02㎡

f　地 点　期間　令和３年11月８日～11月15日　面積　98㎡/960㎡

本 調 査　　期間　令和４年１月11日～令和４年２月10日　　面積165.5㎡

本 整 理　　期間　令和４年５月９日～令和５年３月31日

5．遺構No.は，数字と記号（アルファベット）の組み合わせで標記した。記号は以下のとおりである。

竪穴建物跡　D　　柱穴　P

6．遺構・遺物の縮尺は，原則として下記のとおりである。

［遺構］竪穴建物跡1/80

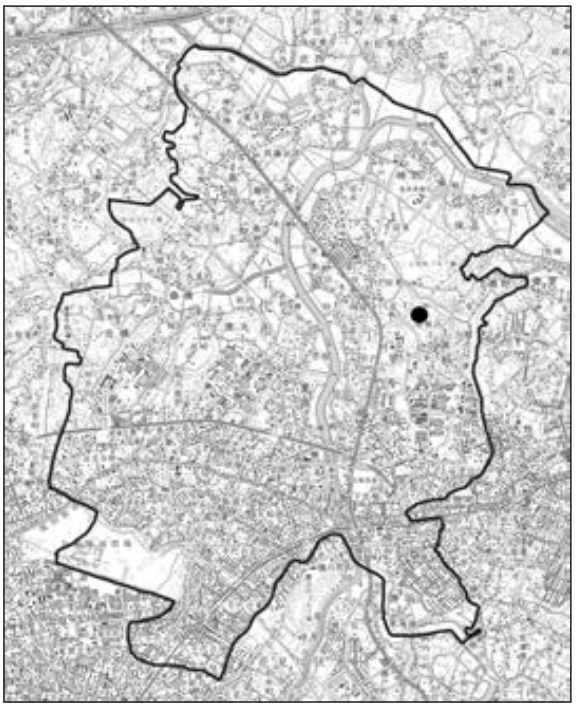
［遺物］土器1/3　土器片1/2　石器1/1

6．参考文献は第３章末にある。

7．出土した遺物のほか，写真・図版等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

8．本書の図版作成は，調査補助員と宮下が行い，編集・執筆は宮下が担当した。

八千代市の位置



平沢遺跡の位置

（国土地理院発行５万分の１地形図に加筆・編集）

目　　次

凡例
目次
挿図目次
写真図版目次
第１章　調査経過及び概要
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の概要……1
　第３節　平沢遺跡の概要……1
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　弥生時代……4
　第２節　縄文時代……6
第３章　成果と課題……9
写真図版……10
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　平沢遺跡調査地点……2
第２図　平沢遺跡周辺跡……3
第３図　大正時代の平沢遺跡周辺……3
第４図　平沢遺跡ｃ地点・ｆ地点遺構配置図…4
第５図　０１Ｄ遺構実測図・出土遺物（１）…5
第６図　０１Ｄ出土遺物（２）……6
第７図　縄文時代出土遺物……7

写 真 図 版 目 次

図版１　調査区全景・０１Ｄ全景・０１Ｄ炭化物出土状況・０１Ｄ土層断面……10
図版２　０１Ｄ出土遺物・縄文時代遺物……11

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯

令和３年５月27日付けで，社会福祉法人鳳雄会　ほうゆうベビーホーム　理事長　黒田明美氏（以下鳳雄会）から上高野152-8ほかの乳児院の建設に係る「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の依頼が提出された。確認地は，周知の遺跡である平沢遺跡の範囲内であるため，八千代市教育委員会(以下「市教委」という。）は，「周知の埋蔵文化財包蔵地であり，現状保存されたｃ地点を含む範囲であることから，文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届出が必要」であることと，「その取扱いについて協議したい」旨をそれぞれ回答し，合計3638.87㎡について取扱いに係る協議を行った。その結果，鳳雄会は工事を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年８月31日付で鳳雄会から土木工事の届が提出され，市教委は11月８日に確認調査を開始した。

確認調査　確認調査は，令和３年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて行った。未調査部分を平沢遺跡ｆ地点として対象面積960㎡のうち98㎡を調査した。その結果，ｃ地点で発見された竪穴建物跡の一部を除き遺構は検出されなかった。

本調査　確認調査及び過去の調査の結果から662㎡について協議範囲とし，本調査実施に向けて協議を重ねた。協議の結果662㎡の内496.5㎡を現状保存とし，残り165.5㎡（ｃ地点120㎡，ｆ地点45.5㎡）を記録保存の範囲とした。市教委は令和３年12月27日付で調査の見積りを事業者に提示し，事業者からも令和４年１月４日付で八千代市長（以下「市」という。）に調査依頼書が提出された。市は同年１月４日付でこれを受託した。令和４年１月４日付で市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。同年１月11日に市教委が本調査を開始した。

第２節　調査の概要

本調査は，遺構を検出した周囲165.5㎡を対象として行った。ただし，ｃ地点，ｆ地点の間に設置されている擁壁及びフェンスは撤去せず調査を行った。表土については重機により掘削し，適宜写真撮影と図面作成，トータルステーションによって記録をとりながら完掘を目指した。

調査経過は，１月11日機材搬入，環境整備，調査前状況写真撮影。１月12日から14日にかけて表土掘削。遺構確定後１月17日より竪穴建物跡等の遺構調査に移行した。トータルステーションによる遺物取り上げ及び平面図作成等を並行して行い，随時写真撮影等により記録を行った。遺構調査終了後に全体写真撮影を行い，２月10日機材を撤収し，調査を終了した。

第３節　平沢遺跡の概要

遺跡の立地　平沢遺跡は，市域の東部，上高野地区にある。南北を高野川から延びる２本の谷津に挟まれた標高12mから24mの台地上に位置する。調査地点は遺跡の西端に位置し，谷津を西に臨む台地上平坦面，標高20m前後に立地する。

これまでの調査　５地点の調査が八千代市教育委員会により行われ，平成７年のa地点の本調査では，弥生時代の竪穴建物跡10棟と時期不明の溝跡，土坑が調査されている。平成22年に行われたｂ地点の本調査では縄文時代のピット２基，弥生時代の竪穴建物跡４棟，ピット１基，奈良・平安時代の溝跡２条，ピット８期が調査されている。平成23年のｃ地点の確認調査の結果，縄文時代の土坑１基と弥生時代の竪穴建

第１図　平沢遺跡調査地点

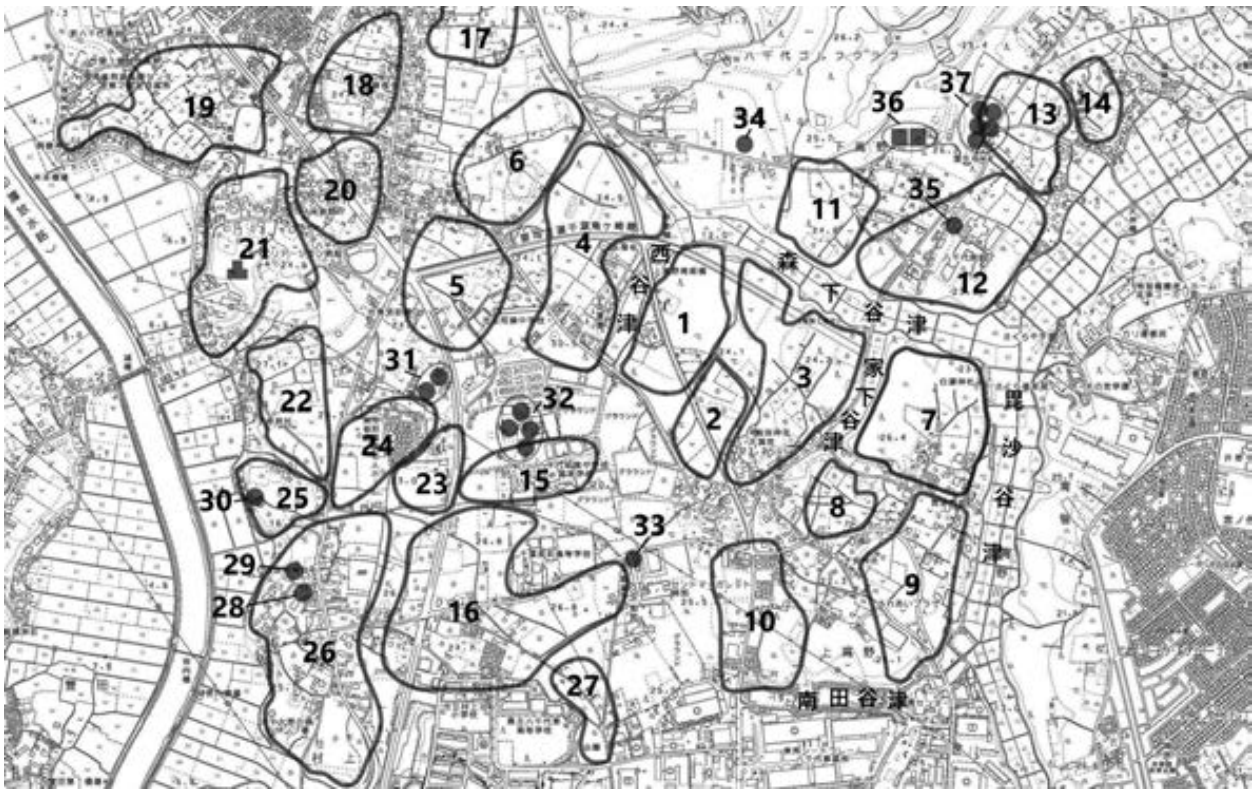
物跡２棟が見つかっている。ｃ地点についてはこのとき全面現状保存をしている。平成25年に行われたｄ地点の確認調査では遺構は確認されず，平成28年に行われたｅ地点の本調査では，ｃ地点の一部を含めた2,635㎡が調査され，弥生時代の竪穴建物跡20棟，中近世の溝跡２条のほか，土坑25基を調査している。

周辺の遺跡　高野川から延びる森下谷津の南岸，平沢遺跡と同じ台地上には殿台遺跡と堂の上遺跡が所在する。殿台遺跡では都市計画道路建設の際に八千代市教育委員会（以下市教委）により調査が行われ，旧石器時代の遺物集中箇所が２地点と，時期不明の土坑と井戸と考えられる遺構が見つかっている。

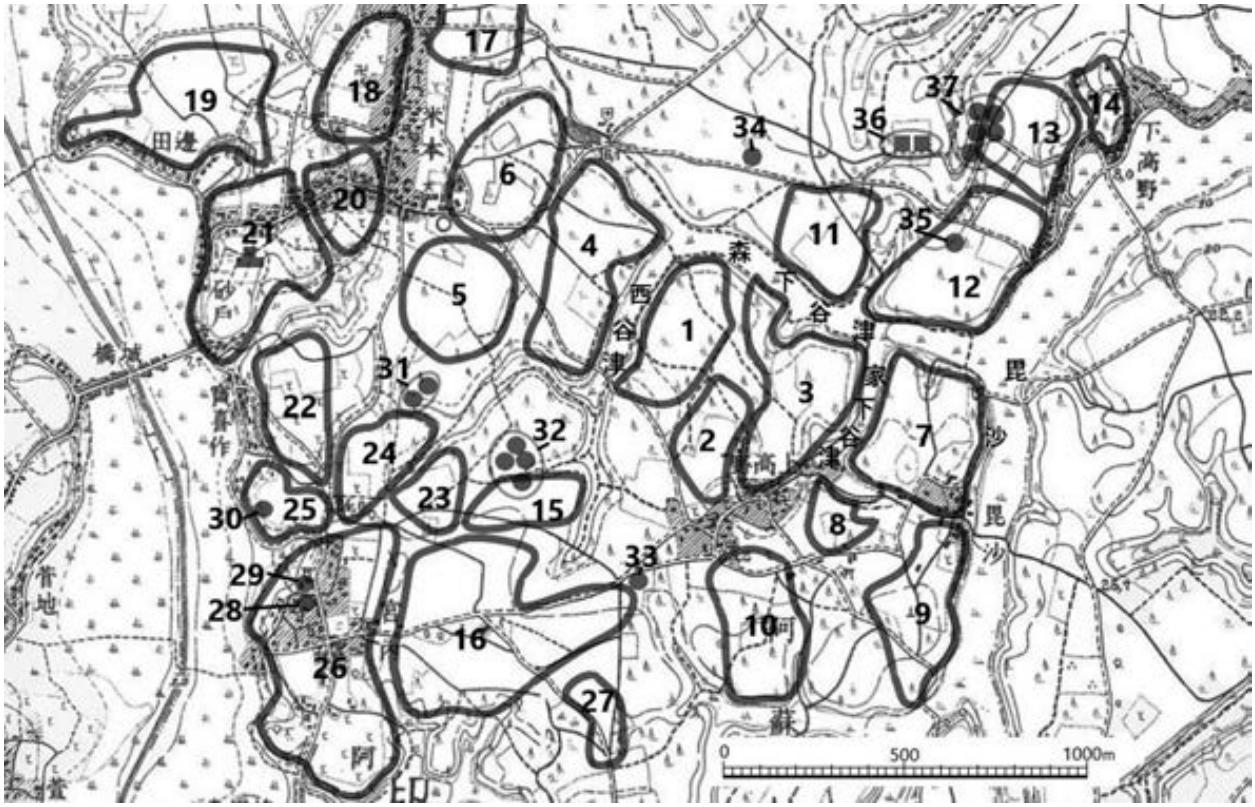
森下谷津の最奥部，平沢遺跡から西谷津を挟んだ西側に阿蘇中学校東側遺跡が所在する。さらにその西には赤作遺跡，上宿遺跡が所在している。阿蘇中学校東側遺跡では都市計画道路，霊園の造成及び寺院の建立を原因に市教委により，国道296号線及び県道千葉竜ケ崎線等を原因として千葉県文化財センター（以下県文セ，現千葉県教育振興財団）により調査が行われ，弥生時代の集落跡を中心に，旧石器時代の石器集中地点や縄文時代の土坑，中近世の土坑群等が見つかっている。赤作遺跡も阿蘇中学校校舎増設に伴い市教委により，国道296号線の工事に伴い県文セにより調査が行われ，旧石器時代の遺物集中地点，縄文時代の竪穴住居や土坑，陥穴，中近世の溝や道路跡，土坑群が見つかっている。中近世の土坑群は，多くの土坑から人骨が見つかっており，土坑墓であったと考えられる。

家下谷津を挟んだ東側には上高野白旗遺跡，笹掘込遺跡，毘沙遺跡が所在し，南側には上高野大山遺跡，森下谷津を挟んだ北東側には丸山遺跡，下高野新山遺跡が所在する。下高野新山遺跡では病院建設に伴い調査が行われ，縄文時代の炉穴や土坑，中世の地下式坑等が調査された他，古墳や竪穴建物跡，方形周溝状遺構等が現状保存されている。下高野新山遺跡の北には作畑遺跡，天神遺跡が所在し，作畑遺跡は確認調査のみであるが，奈良・平安時代の竪穴建物が見つかり，天神遺跡では，縄文時代の炉穴，奈良・平安時代の竪穴建物跡のほか，中世の竪穴状遺構や地下式坑，土塁，溝などが見つかっている。

平沢遺跡南西方向は村上新山遺跡や西山遺跡等が所在している。村上新山遺跡では弥生時代の竪穴建物跡等が見つかっており，西山遺跡では古墳時代や奈良・平安時代の竪穴建物跡等が見つかっている。

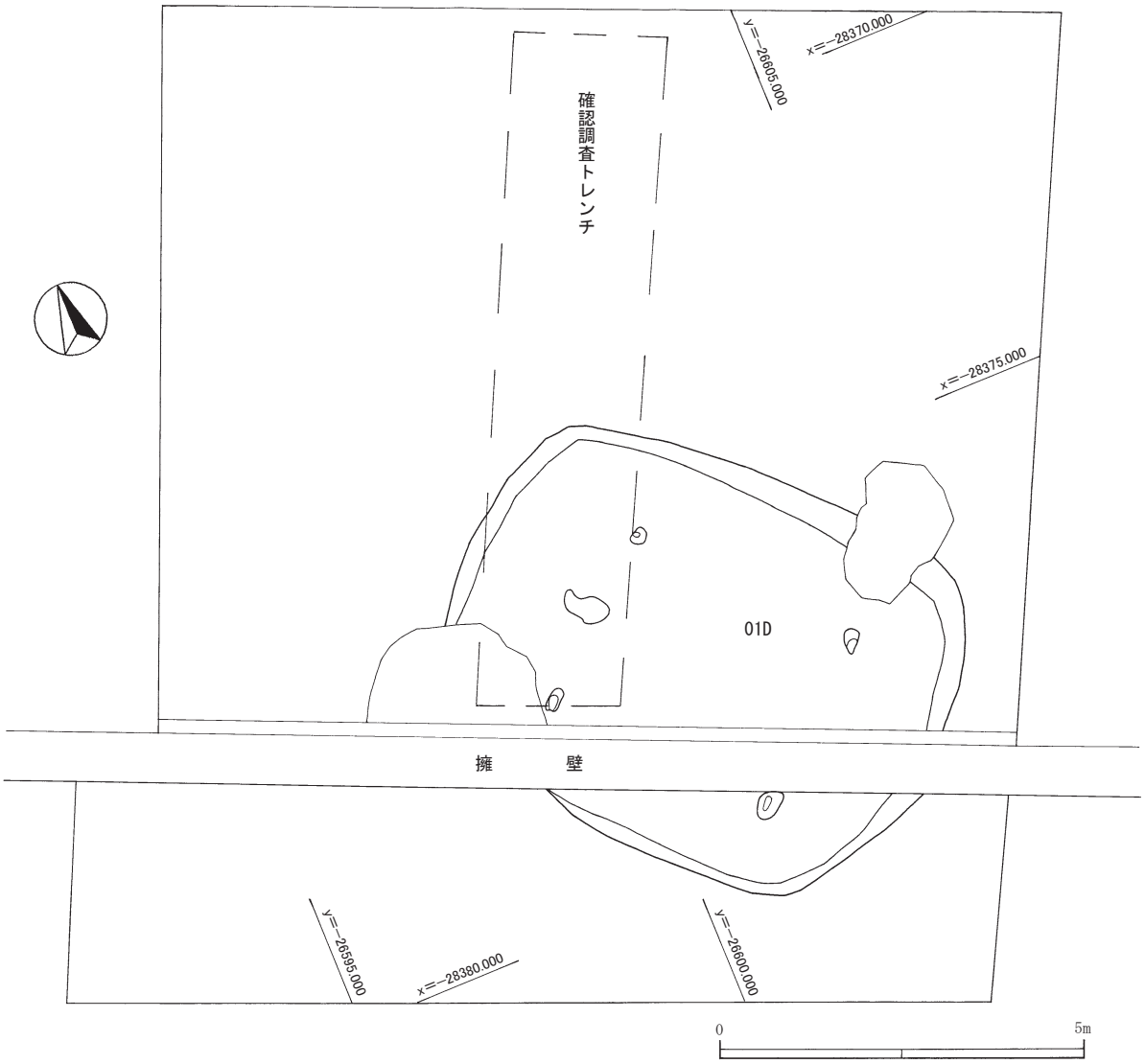


第２図　平沢遺跡周辺（国土地理院発行５万分の１を編集）



第３図　大正時代の平沢遺跡周辺（国土地理院発行２万分５千分の１を編集）

1平沢遺跡　2殿台遺跡　3堂の上遺跡　4阿蘇中学校東側遺跡　5赤作遺跡　6上宿遺跡　7上高野白旗遺跡
8笹堀込遺跡　9毘沙遺跡　10上高野大山遺跡　11丸山遺跡　12下高野新山遺跡　13作畑遺跡　14天神遺跡
15村上新山遺跡　16西山遺跡　17上宿東遺跡　18上宿西遺跡　19米本辺田台遺跡　20天神輪遺跡
21米本城跡　22立野台遺跡　23村上新山西遺跡　24村上奈機遺跡　25宝喜作遺跡　26村上宮内遺跡
27大塚遺跡　28七百餘所神社古墳　29七百餘所神社塚　30宝喜作入定塚　31米本塚　32村上新山塚群
33上高野相野庚申塚　34下高野庚申塚　35下高野新山古墳　36大久保三山塚　37作畑塚群



第４図　平沢遺跡ｃ地点・ｆ地点遺構配置図

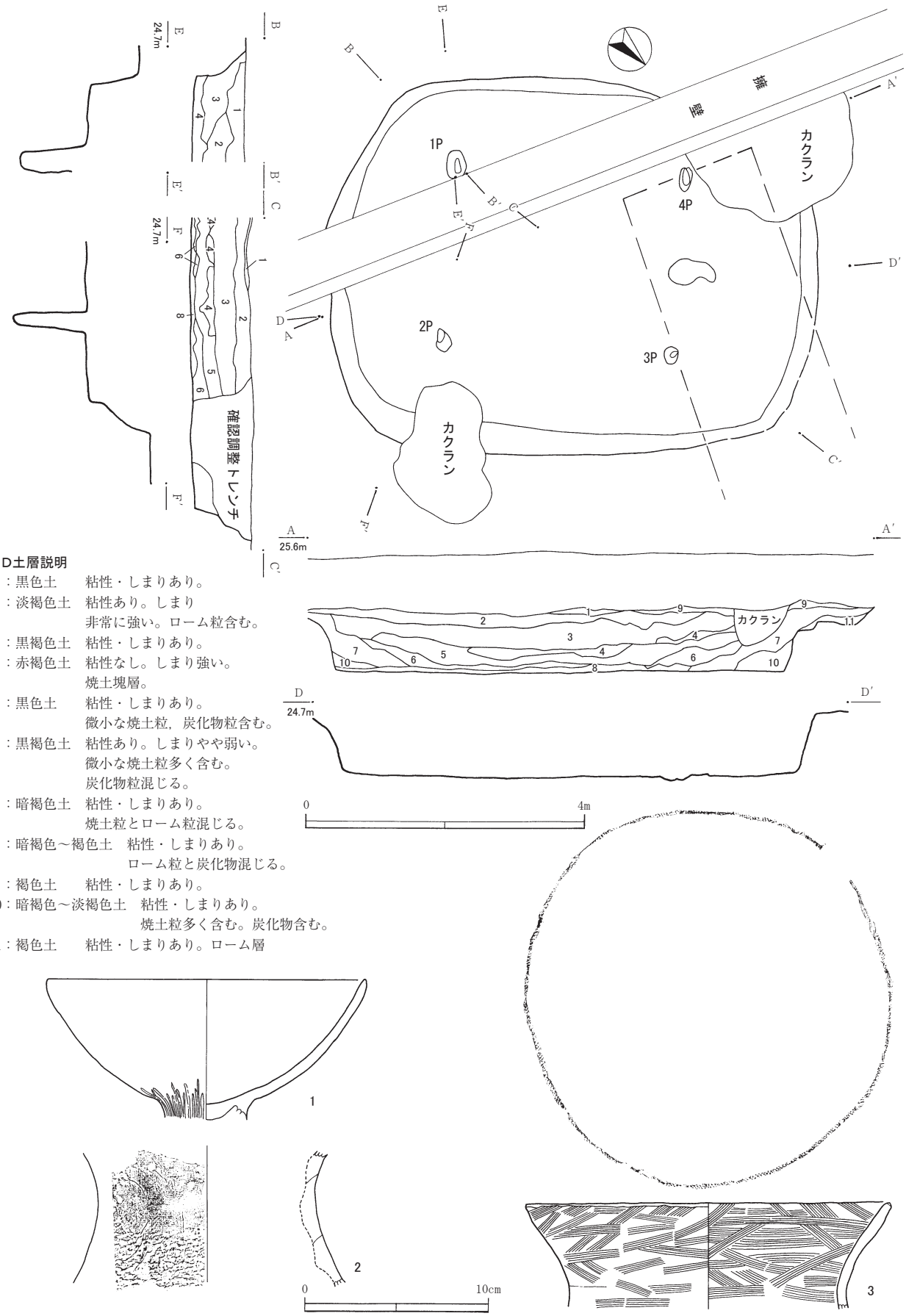
第２章　検出された遺構と遺物

第１節　弥生時代

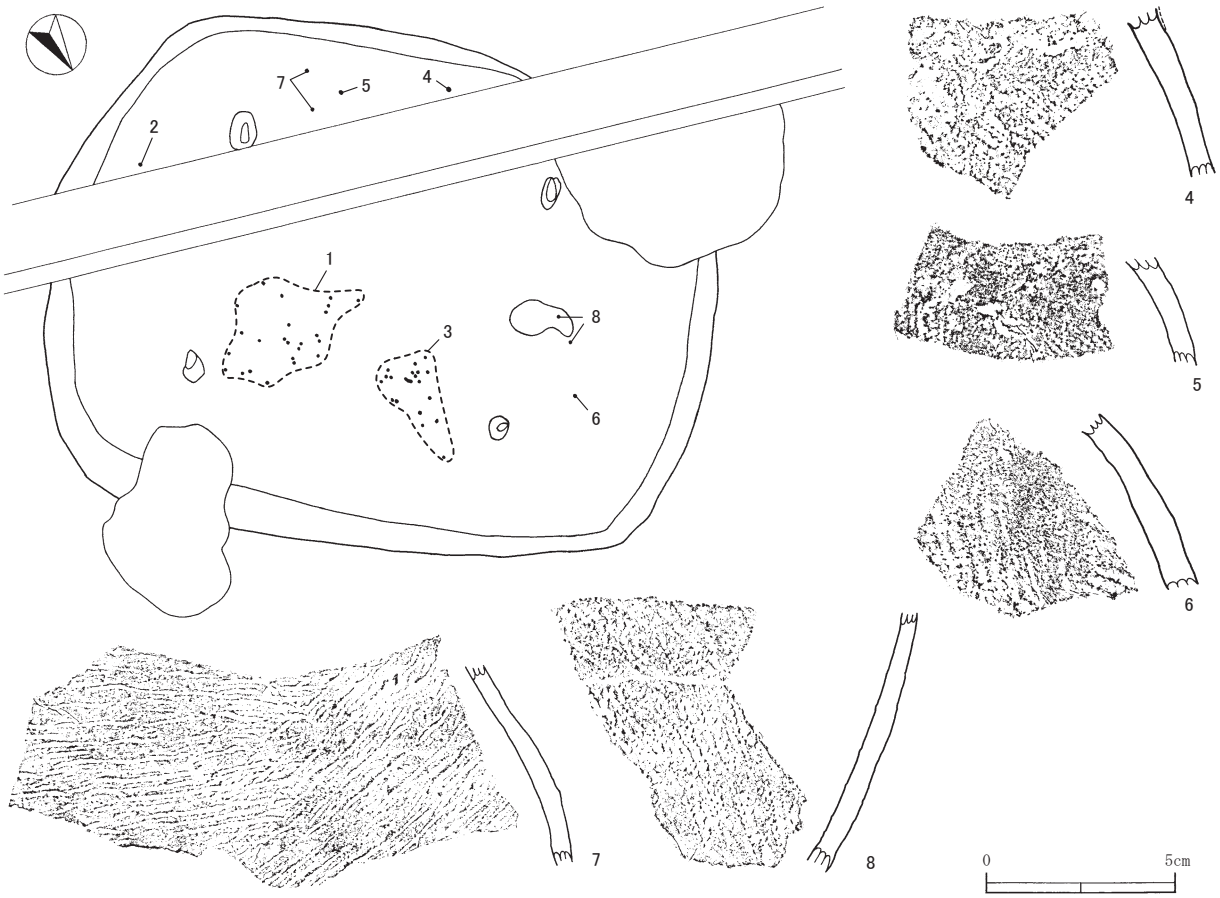
今回の調査において、弥生時代の竪穴建物跡１棟を検出した。

０１Ｄ

位置　調査区南東寄り　**確認面**　ソフトローム層　**主軸方向**　Ｎ－44°－Ｗで西に振れている。　**規模・平面形**　7.1m×5.5m×0.7m　**壁**　比較的垂直に立ち上がる。　**床面**　ハードローム層を掘り込み地床とする。**柱穴**　１Ｐ～４Ｐが主柱穴と考えられる。　**炉**　遺構中央北西よりに作られる　**覆土**　10層に分類。３層下の焼土塊層（４層）が，一見すると床面かのように広がる状況が見られた。また，床面直上は炭化物と焼土が入り混じった層で，大量の炭化材も検出している。11層は地山である。　**遺物出土状態**　覆土内から縄文土器片が，床面付近からは弥生土器が見つかっている。なお，縄文時代の遺物については次節にてまとめて図示する。**所見**　覆土や遺構の形態などから弥生時代後期の竪穴建物跡で，焼失住居と考えられる。



第５図　０１Ｄ遺構実測図・出土遺物（１）



第６図　０１Ｄ出土遺物（２）

01Ｄ遺物観察表

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	土師器 高坏	坏部	(7.5)	(17.0)	—	褐色～暗褐色	長石，石英	横方向のヘラナデの後ミガキ調整
2	弥生土器 甕	胴部	—	—	—	淡黄褐色	長石，石英 黒色鉱物	内面ヘラナデ 外面縄文施文，下部はナデ調整
3	弥生土器 甕	口縁～頸部	(5.5)	(19.6)	—	淡褐色	長石，石英	口唇部に縄文施文 内外面ともにハケ目状のヨコナデ
4	弥生土器 甕	胴部	—	—	—	外面　褐色 内面　黒色	長石，石英	外面S字状結節文を施文し，その下に附加条縄文を施文。内面ナデ調整。
5	弥生土器 甕	頸部～胴部	—	—	—	外面淡黄褐色 内面灰白色	長石，石英	外面頸部はハケ目状のナデ調整後ミガキ，胴部はS字状結節文を施文する。内面は被熱により発泡している。
6	弥生土器 甕	胴部	—	—	—	内外面とも淡褐色～黒色	長石，石英	外面附加条縄文を施文後擦り消している。内面ヨコナデ
7	弥生土器 甕	胴部	—	—	—	内外面とも橙褐色～黒色	長石，石英	外面附加条縄文，下部はナデ調整。内面ヘラナデ
8	弥生土器 甕	胴部	—	—	—	内外面とも橙褐色	長石，石英	外面附加条縄文。内面ナデ調整。

第２節　縄文時代以前

今回の調査において，弥生時代以外の遺構は検出されなかったが，遺構確認面上や遺構覆土中から遺物の出土が見られたことから下記に報告する。土器は縄文時代前期後半（諸磯式，浮島式，興津式等），後期～晩期（安行式等）と考えられる。掲載した遺物の内３～５，10，11は確認面上からの出土で，それ以外は０１Ｄの覆土中からの出土である。

第７図　縄文時代出土遺物

縄文時代遺物観察表（１）

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
1	縄文土器	口縁部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	棒状工具による横方向の沈線
2	縄文土器	口縁部	—	—	—	外面暗灰白色 内面暗灰白色	長石， 黒色鉱物	口唇部にキザミ，体部に横方向の沈線がはいる
3	縄文土器 深鉢	口縁部	—	—	—	外面黒褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 雲母，褐色鉱物	棒状工具による沈線と圧痕
4	縄文土器 深鉢	口縁部	—	—	—	外面暗褐色 内面褐色	長石，石英	口辺部に縦方向の沈線を施文後，沈線の中央部分をヨコナデ。口辺部と胴部の間に横方向の沈線を２本施文し，胴部には貝殻による押引きを施文か
5	縄文土器 深鉢	口縁部	—	—	—	外面黒褐色 内面黒褐色	長石，石英	口唇部にボタン状貼付文，胴部は縄文を施文後，棒状工具により細かいキザミが付けられた浮線文により区画されている。
6	縄文土器	胴部	—	—	—	外面橙褐色 内面淡褐色	長石，石英	貝殻腹縁文

縄文時代遺物観察表（２）

	器種等	部位	計測値（cm）			色　調	胎　土	調整・文様等
			器高	口径	底径			
7	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗灰白色 内面暗灰白色	長石，石英 褐色鉱物	横方向の沈線
8	縄文土器	口縁部	—	—	—	外面灰白色 内面灰白色	長石，石英 褐色鉱物	口唇部部分には棒状工具によるキザミ。体部は平行沈線文
9	縄文土器	胴部	—	—	—	外面淡褐色 内面淡褐色	長石，石英 赤色鉱物	半裁竹管の内側を使用した押引き
10	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面淡褐色	長石，石英 褐色鉱物	半裁竹管による平行沈線
11	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗灰白色 内面暗灰白色	長石，石英 褐色鉱物	平行沈線文
12	縄文土器	胴部	—	—	—	外面淡黄白色 内面暗灰白色	長石、石英 褐色鉱物	平行沈線文
13	縄文土器	口縁部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	縄文を施文後，２本の沈線で区画された中を擦り消す。
14	縄文土器	口縁部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	縄文を施文後，２本の沈線で区画された中を擦り消す。縦長の無紋の瘤を付ける。
15	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面黒褐色	長石，石英	縄文を施文。横方向の沈線が入る。
16	縄文土器	胴部	—	—	—	外面灰白色 内面灰白色	長石，石英 褐色，黒色鉱物	縄文施文後に平行沈線文を施文。沈線で区画された中をナデ調整
17	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗灰白色 内面灰白色	長石，石英 褐色，黒色鉱物	平行沈線文
18	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面黒褐色	長石，石英 黒色鉱物	横方向の沈線により無紋部分と縄文部分が区画される。
19	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	横方向の沈線により無紋部分と縄文部分が区画される。
20	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	横方向の沈線により，縄文施文部分と無紋部分に区画される。磨消縄文か。
21	縄文土器	胴部	—	—	—	暗灰白色 内面暗淡褐色	長石，石英	横方向の沈線により無紋部分と縄文部分が区画される。
22	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面暗淡褐色	長石，石英 黒色鉱物	沈線により区画した後に縄文を施文している。内面ミガキ
23	縄文土器	胴部	—	—	—	内面淡黄褐色 外面淡黄褐色	長石，石英	横方向の沈線により無紋部分と縄文部分が区画される。
24	縄文土器	胴部	—	—	—	外面暗淡褐色 内面黒褐色	長石，石英	縄文を施文
25	剥片		1.9 (最大長)	1.0 (最大幅)	0.3 (最大厚)	淡オリーブ色	珪質頁岩	
26	ナイフ形 石器か		2.9 (最大長)	1.7 (最大幅)	0.6 (最大厚)	黒色	黒曜石	片側の長辺に押圧による剥離の痕跡がある。刃部を作り出す途中のものか？

第３章　成果と課題

今回の調査により、弥生時代の竪穴建物跡１棟を検出した。これまでの調査において見つかっている弥生時代の集落の延長上に位置する。元々ｆ地点の確認調査における調査範囲が，ｃ地点及びｅ地点に沿った細長い範囲であることから，弥生時代の集落としては，ｆ地点の範囲からさらに西谷津沿いの台地縁辺及び南側の緩斜面上へと集落が展開することが予想される。また，今回の調査では遺構こそ見つかっていないが，確認面上や遺構の覆土から縄文土器が相当数見つかっていることから，今後縄文時代の遺構が増加することも期待される。

参考文献

平野考古学研究所（1978年）『千葉県八千代市村上新山遺跡発掘報告書』
佐藤克己（1980年）『阿蘇中学校東側遺跡』
八千代市遺跡調査会（1984年）『千葉県八千代市　阿蘇中学校東側遺跡Ⅲ』
八千代市教育委員会（1987年）『千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集』
八千代市史編さん委員会（1991年）『八千代市の歴史』資料編　原始・古代・中世
㈶千葉県文化財センター（1999年）『一般国道296号線道路改築事業埋蔵文化財調査報告書１－八千代市赤作遺跡・阿蘇中学校東側遺跡－』
㈶千葉県教育振興財団（2007年）『八千代市向境遺跡・雷遺跡・阿蘇中学校東側遺跡』
八千代市遺跡調査会（2009年）『千葉県八千代市下高野新山遺跡』
八千代市遺跡調査会（2011年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成22年度』
八千代市教育委員会（2011年）『千葉県八千代市　平沢遺跡ｂ地点』
八千代市教育委員会（2013年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成24年度』
八千代市教育委員会（2013年）『千葉県八千代市　平沢遺跡ａ地点・殿台遺跡ａ地点』
八千代市教育委員会（2017年）『千葉県八千代市平沢遺跡ｅ地点』
八千代市教育委員会（2020年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　令和元年度』
八千代市教育委員会（2022年）『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ』

図版１

調査区全景

０１Ｄ全景（ｃ地点）

０１Ｄ炭化物出土状況（１）

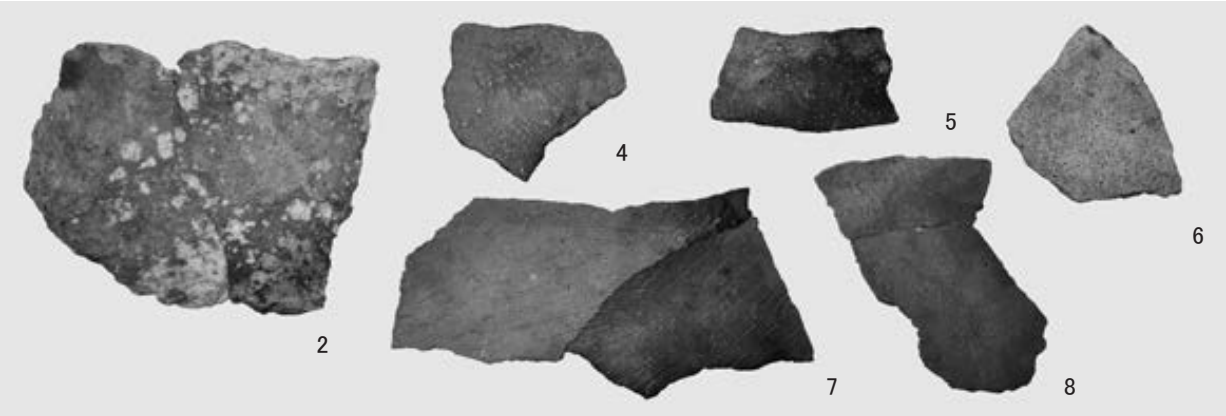
０１Ｄ全景（ｆ地点）

０１Ｄ炭化物出土状況（２）

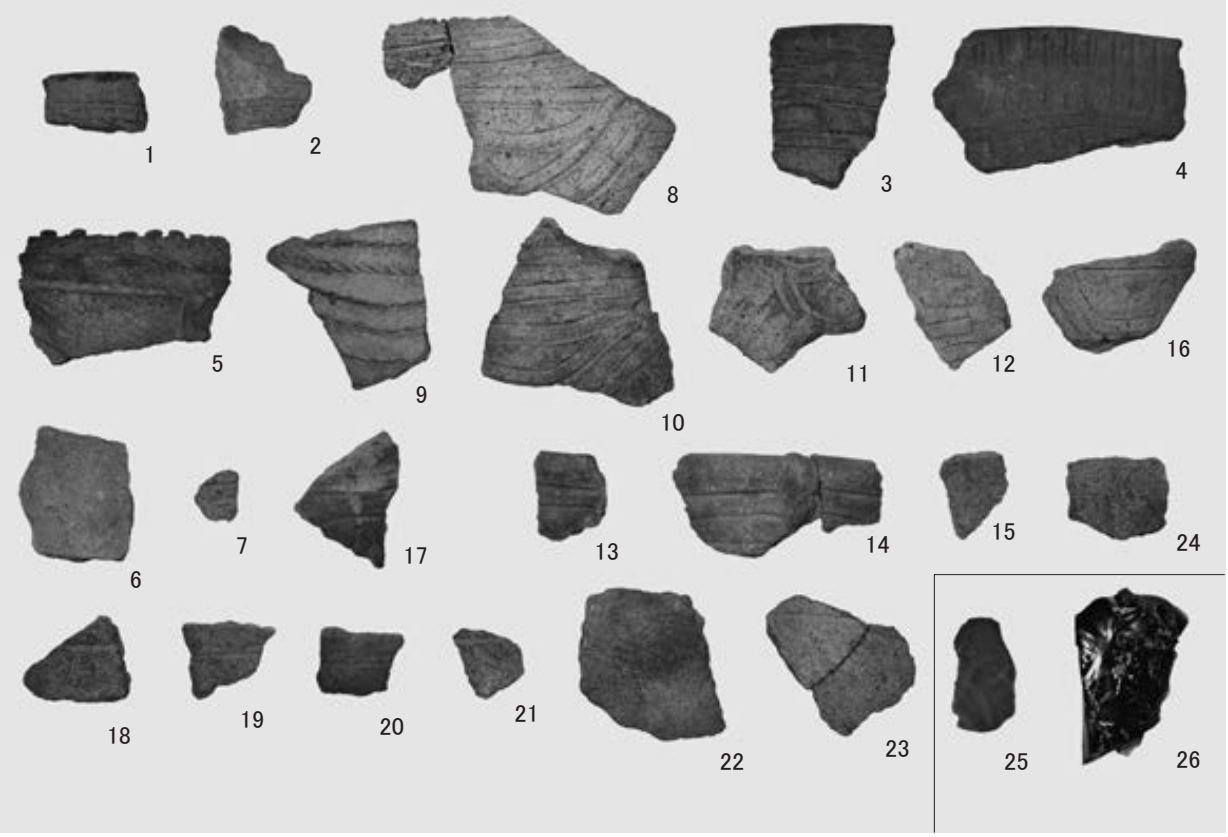
０１Ｄ土層断面（A-A′）

０１Ｄ土層断面（B-B′）

０１Ｄ土層断面（C-C′）



０１Ｄ出土遺物



縄文時代遺物

報　告　書　抄　録

ふ り が な	ちばけんやちよし　ひらさわいせきしーちてん・えふちてん
書　　名	千葉県八千代市　平沢遺跡ｃ地点・ｆ地点
副　書　名	乳児院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 者 名	宮下聡史
編 集 機 関	八千代市教育委員会
所　在　地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地2　TEL 047(483)1151代表
発行年月日	令和５年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらさわいせき 平沢遺跡	かみこうや 上高野152-8, 153-1	12221	217	35度 44分 36秒	140度 ７分 39秒	20220111 ～ 20220210	165.5	乳児院建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平沢遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器, 縄文，弥生, 奈良・平安	弥生時代竪穴建物跡　１棟	縄文土器，石器, 弥生土器	
要　　約	調査において，弥生時代の竪穴建物１棟を検出した。これまでの調査において検出されている弥生時代集落の延長に位置づけることができ，西側の谷沿い及び南の台地平坦面上へのさらなる集落の展開が予想される。				

千葉県八千代市　平沢遺跡ｃ地点・ｆ地点

―乳児院建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　　令和５年３月31日

編　　集　　八千代市教育委員会　文化・スポーツ課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
TEL 047-481-0304

発　　行　　社会福祉法人　鳳雄会

印　　刷　　金子印刷企画
千葉県八千代市萱田410-1